

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	22-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳） Alcohol-associated Liver Disease Is Now the Most Common Indication for Liver Transplant Waitlisting Among Young American Adults アルコール関連肝疾患は肝移植待機となる若年米人の最も一般的な原疾患である		
執筆者 George Philip, Lawrence Hookey, Harriet Richardson, Jennifer A Flemming		
掲載誌 Transplantation106(10):p2000-2005,October 2022.doi: 10.1097/TP.0000000000004202		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患、肝移植、非アルコール性脂肪肝疾患、C型肝炎ウイルス	3564297	
要 旨 <p>目的： 肝硬変による死亡率は増加しており、アルコール関連肝疾患(ALD)のある若年成人では最も高くなっている。この研究の目的は、肝移植待機者について、年齢、性別、および肝硬変の病因によって層別化し、調査することである。</p> <p>方法： 2003年から2018年までのScientific Registry of Transplant Recipientsデータベースを使用し、後ろ向き調査を行った。肝移植待機リストに新たに登録された成人を対象とし、登録時の年齢により20-39歳あるいは40歳以上に分けた。さらに、性別、および病因（ALD、非アルコール性脂肪肝疾患: NAFLD、C型肝炎、B型肝炎、自己免疫性肝炎、遺伝性肝疾患）別の肝移植待機リストの年間標準発生率を計算した。年率の変化は、ポアソン回帰で分析した。</p> <p>結果： 合計209,399人の登録者が含まれ、10,326(5%)人が20-39歳であった。調査期間中、20-39歳では、病因のうちALDが最も増加し(4倍増加)、NAFLD(2倍増加)が続いた。また、20-39歳において、男性より女性で、ALDにより肝移植待機リストに登録される可能性が高く、NAFLDにより登録される可能性は低かった。40歳以上では、ALD(2倍の増加)とNAFLD(2倍の増加)による肝移植待機リストへの登録が最も増加した。C型肝炎ウイルスは2003年から2013年にかけて増加し、2014年以降は40歳以上で減少した。</p> <p>結論： ALDにより肝移植待機となる若年米人が大幅に増加している。青年および若年成人におけるALDの初期段階からの介入を行い、肝硬変および肝臓関連合併症を予防することが必要と考えられる。</p>		